



第7号
令和2年11月30日
庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 喜びを分かち合える！

総合活動としての発表会は、集団生活における成長過程に大きな経験となるものです。

そして、運動会の折にも申し上げましたが、幼稚園内で生活する子ども達に感染は及んでおりません。そして、お子さんを送り出して居るご家庭にも、感染のお話はございません。皆さんが感染に気を付けて生活して頂いている成果であると思います。11月まで、子ども達は、お陰様で十分な活動も行事も経験させていただきました。

近々、開催いたします発表会の経験は、成長に大きく貢献できる活動として期待をしております。子どもが自ら思うこと、考えることを出し合って形にして行く過程が、とても貴重な経験になります。自分が周囲から受け入れられる喜びは、自己評価を高め周囲を受け入れる気持ちにつながります。私たちも、自分の歩みを振り返ってみますと、多くの思い出が友達や仲間と一緒に浮かんで参ります。それも年齢が積みば積むほど鮮明に思い出され、自分の歩みに彩を添えてくれます。幼稚園時代は、遊びを通して学び育ち合います。19歳になった卒園生の男の子が、僕の今までで幼稚園時代の生活が、一番楽しかったよ！と、お母さんに話してくれたそうです。幼稚園生活を自ら生きてくれた人として、嬉しくお聞きしました。一生懸命やれたこと、共に切磋琢磨して競い合い努力して来た人たちは、その後の人生の折々に自分を奮い立たせる存在に成ったり、相手の健康を自分の事として心配したり、生涯支え合える存在にも育ちます。心情を吐露する友が居る。それぞれの道に進み、自立してからの友が居る。人生において喜びは、沢山あります。一人で趣味に没頭することも大切な喜びです。今一つには、語れる家庭や友が居ることは、自分を見つめるとき、自分のしたことを評価してくれる存在として必要不可欠な人です。

幼稚園は、何かが出来ようになることよりも、目の前の環境に、意欲的に関わって行こうとする気持ちを育てることが大事なところなので、早いうちから、ある領域に特化して習得させるより、これから出会うであろう、あらゆることに臆することなく興味を抱ける心を宿したいものです。幼児期は沢山の事に興味や関心を抱ける器を広げる時期なのです。出来るだけ偏りがなく、初めての事にも拘らずにやってみる精神が、その後の生活が自由に、生きることの苦手意識を抱かずに生きられることは、容易に想像できます。それには、周囲の力が必要なのです。共に喜んでくれる人が必要なのです。共に喜んでくれる家族が必要なのです。褒めて育つ！という精神と言葉は、育てる原点であろうと思います。それは、言い換えれば喜びを分かち合ってくれる人なのであります。成人した私たちは、心情に寄り添う心掛けをしながら、社会生活を営み人間関係を深めて生活しております。幼稚園時代は、その喜びを分かち合う体験を積み重ねております。この発表会を通して、生きる上で大切なことを学んでくれることでしょう。

発表会がとても楽しみです。